

世界の恒久平和を願って佐倉市民が演奏する
ベートーヴェン不朽の偉大な交響曲第九番

第4回

佐倉の第九演奏会

～ 市民の第九 ～



第3回 佐倉の第九～市民の第九～

2003(平成15年)3月9日(日) 14時開演

 主催・会場 **佐倉市民音楽ホール**

プログラム

G.F.F.ヴェルディ

歌劇「ナブッコ」から
「思いよ、黄金の翼にのって」

L.v.ベートーヴェン

交響曲 第九番ニ短調
Op.125「合唱付」
(ベーレンライター社新版使用)

第1楽章 ニ短調
アレグロ・マ・ノン・トロッポ・ウン・ポコ・マエストーソ

第2楽章 ニ短調
モルト・ヴィヴァーチェ

第3楽章 変ロ長調
アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

第4楽章 ニ短調 合唱付
プレスト〜アレグロ

指揮 三原 明人

ソプラノ 佐橋 美起
メゾソプラノ 森永 朝子
テノール 榊原 哲
バリトン 若林 浩

管弦楽 佐倉フィルハーモニー管弦楽団
合唱 佐倉第九市民合唱団

合唱指導 若林 浩
安藤 純
基礎指導 稲川 明子
永倉喜代子
練習ピアニスト 天田 文子
徳富 香恵

プログラム・ノート

G. F. F. ヴェルディ (1815~1901)
歌劇「ナブッコ」から
「思いよ、黄金の翼にのって」

ヴェルディはイタリア歌劇の王と呼んでよいだろう。今日でも彼の優れた歌劇は世界各地で数多く上演されている。中でも、歌劇「ナブッコ」は、イタリアでは最も親しまれている作品の一つだ。ヴェルディが27歳の時、1842年3月9日にミラノ・スカラ座で初演された。序曲に続く4幕7場で、上演時間は約2時間20分。

歌劇「ナブッコ」は、旧約聖書のエレミア書、ダニエル書に書かれている紀元前605年から562年まで43年間に在位したバビロン王ナブコドノゾルデの物語を素材としている。ナブコノゾルデ王は、エジプト、シリアを制圧したバビロンの大王といわれたが、晩年は暴君となり、精神異常者になった。

歌劇の大筋は、ヘブライとバビロンとの戦いの中で、バビロン王ナブッコの異母姉妹が王位継承の策謀にかかり、王ナブッコも牢獄に幽閉される。しかし、牢獄で王は神に暴君となった罪の許しを祈り、やがて正気に戻り、祖国を建て直す。また、奴隷としていたヘブライ人も故郷に戻す。王に背いた姉は父と妹に罪を詫言、悔い改めつつ死んでゆく。

本日演奏される「思いよ、黄金の翼にのって」は、第3幕でヘブライの奴隷たちが、ユーフラテス河畔での過酷な強制労働の明け暮れの中で、故郷への想いを込めて歌う合唱である。イタリアの第2の国家ともいわれるほど、イタリアでは国民に愛唱されている。

【歌詞の大意】

思いよ、黄金の翼にのって飛んで行け
故郷の地のそよ風があたたく匂う
ヨルダン河の岸边やシオンの壊れた塔に
あいさつをしてくれ。

ああ、失われた美しいわが祖国よ
ああ、いとしく、悲しい想いでよ
予言者の金の堅琴よ、柳にかけられたまま
どうして黙っているのか
胸の思いを再び燃やし、去った日々を我らに語れ。

エルサレムの運命に似た深い嘆きの音を奏でよ
でなければ 苦しみに耐える力を与えよ
美しい響きを神が啓示されるように。

An die Freude

(歓喜に寄す)

馬場 孝之

L. v. ベートーヴェン (1770~1827)
交響曲 第九番 二短調
Op. 125 「合唱付」

ベートーヴェンは、1816年、彼が42歳の頃から第9番目の交響曲の構想を始めた。1822年から本格的に作曲にとりかかり、翌年の夏、ウィーン郊外の温泉保養地バーデンで第九交響曲の大半を作曲、1824年2月にウィーンで完成させた。作曲を進めていくうちに、彼を取り巻く社会状況、個人の環境の変化により、第4楽章にシラーの賛歌「歓喜に寄す」を基とした「合唱」を組み入れた。

シラーの「歓喜に寄す」は、深淵な内容の詩である。ベートーヴェンが、この詩を交響曲第九番に用いたことについては、内外の音楽家、評論家、文学者、哲学者などが、多くの論を唱えている。古くはロマン・ローランの「第九交響曲」、最近ではサリバン「ベートーヴェンの心の発展」、青木やよい氏の「ベートーヴェン不滅の恋人 謎を解く」などの著書を、ぜひお読みいただきたい。

「歓喜に寄す」の詩と演奏をお聴きいただくなかで、みなさん一人一人が、ベートーヴェンの内面に触れ、またこの大作の意味と偉大さを実感していただければと思っています。

初演は、1824年5月7日 ウィーンのケルトナール劇場(現在ザッハホテルのある場所)で、ベートーヴェンの指揮で行われた。

【日本における第九～全楽章～演奏の黎明】

日本では、ベートーヴェンの交響曲第九番は、40年ぐらい前から、12月になると全国各地で数多く演奏されるようになった。最近では、プロ、アマチュアによる演奏会は、12月だけでも300を数えるのではないだろうか。

日本での「第九」演奏会の始まりを概観すると、1918(大正7)年6月1日に徳島県板東収容所でドイツ人捕虜により全楽章が演奏された。ソリストはすべて男性であった。現在の記録では、これが日本最初の第九演奏会ということになっている。(習志野市での初演説もあるが、関係者が調査中)

日本人による本邦初演は、1924(大正13)年11月29日、東京音楽学校(現在の東京芸術大学)第48回定期演奏会。演奏は、学校の先生と生徒。指揮はドイツ人のグスタフ・クローン。

プロによる本邦初演は、新交響楽団(現在のNHK交響楽団の前身)により、1928(昭和2)年5月3日に朝日新聞社の講堂を会場にして行われた演奏会。

1938(昭和13)年12月26、27日の両日、新交響楽団により歌舞伎座を会場にして「第九」演奏会が開催されているが、日本での暮れの演奏は、この頃に起源を持つようだ。

バリトン独唱

おお、友よ、このような音でなく、もっと快い、
喜びに満ちた調べを 歌おうではないか!

バリトン独唱・合唱

歓喜よ、神のような美しい響きよ、楽園の乙女よ
我らは熱情に酔い あなたの天のような神殿に入る!
あなたの不可思議な力は 世の習いが
厳しく切り離れたものを結びあわせ、
あなたの優しい翼が翹うところ 全ての人は兄弟になる。

四重唱・合唱

大いなる恵みを受けたもの 真の友情をえたものよ、
いとしい女性の愛をかちえたものよ、
ともにあげよ喜びの声を!
そうだ、たとえ人の心ひとつだけでも
地上でわがものと呼びうる人もともに!
これらのことができなかったものは
涙して、この仲間から去っていくかい。

四重唱・合唱

全て世にあるものは 自然の胸から歓喜を飲み、
全ての善人 全ての悪人は 自然のぼらの小道を歩む。
自然はわれらに口づけと葡萄を、
死によっても隔てられぬ友を与えた。
虫にも楽しみが与えられ、
天使ケルビムも神の前にたたずむ!

テノール・男声合唱

明るく、太陽が 壮大な天空の軌道を飛びいくように、
喜び進め、兄弟よ、おのれの道を、
英雄が勝利に向かって進みいくように。

合唱

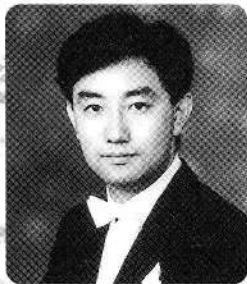
抱き合おう、百万の人々よ! 全世界に口づけを!
兄弟よ、星空のかなたに、愛する父は住みたもうのだ。
ひざまづいたか、百万の人々よ!
創造の主を感じられるか、世界の人々よ!
星空のかなたに主を求めよ!
星のはるかに主は住みたもうのだ。



「第九」日本初演の地といわれる
徳島・坂東にある「ドイツ館」

(写真提供・渡辺尚明氏)

プロフィール



指揮 ^{みはら あきひと} 三原 明人

東京芸術大学でヴァイオラを浅妻文樹、兎東俊之、桐朋学園で指揮を小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。さらに、ゲンナジ・ロジェストヴェンスキー、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマンという大指揮者に師事。1989年、第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールで第2位に輝く。1996年には第8回リスボン国際青年指揮者コンクールで第3位(第1位なし)に入賞。

1989/90年、ウィーン・フィルでバーンスタインのアシスタント、1996年ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務めた。

1995年6月フィンランド・クピオ市立管弦楽団によるベートーヴェン特別演奏会で、第二・第九交響曲を指揮し大好評を博した。1996年10月に再び同管弦楽団の定期演奏会に招かれ、さらに1997年にフィンランド独立80周年記念公演でベートーヴェン第九交響曲を指揮した。

この間、オランダ、ドイツ、チェコ、スペイン、アメリカ等々で著名な交響楽団の指揮をしている。最近では、日本に住み、都響、読売日響、日本フィルなど主要管弦楽団の指揮をし活躍している。「佐倉の第九」は、初演から連続指揮している。



バリトン ^{わかばやし ひろし} 若林 浩

県立佐倉高校卒業後、東京芸術大学音楽部声楽科卒業。声楽を畑中良輔、竹沢嘉明各氏に師事。指揮法を高階正光氏に師事。1985年ウィーンに留学し、マリア・S・ザウアー女史に師事する。教職のかたわら声楽活動を続けており、毎年欠かさずウィーンで声楽の研鑽を続けている。

音楽活動は、東京室内歌劇場公演のオペラ「燃える炉」「脳死をこえて」をはじめ、バッハ「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」「マニフィカト」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などソリストの他、ジョイント・コンサート等に数多く出演している。リサイタルも継続的に行っており、1989年千葉県教育会館、1997年習志野文化ホール、2001年9月千葉・ぼ・る・るホールで、シューベルト「冬の旅」全曲をとりあげた。

合唱団の指導者としても大活躍中で、京葉混声合唱団、習志野第九合唱団、四街道第九合唱団、浦安第九合唱団等で活動。

現在、合唱団コール・ドリーム、浦安男声合唱団、成田楽友協会合唱団常任指揮者、千葉県合唱連盟理事。

「佐倉の第九」は、第1回から今回の4回まで合唱の指導を担当、またソリストとして出演。



ソプラノ ^{さばし みき} 佐橋 美起

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修士課程修了。第55回日本音楽コンクール第1位。増沢賞・福沢賞、木下賞を受賞。BBC主催シンガー・オブ・ザ・ワールド日本代表。北区文化奨励賞受賞。NHKニューイヤーコンサート、題名のない音楽会、NHK若い芽のコンサートに出演。

オペラでは、「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル、「魔笛」の夜の女王、パパゲーナ、「リゴレット」でジルダ、「こもり」でアデーレ、「ドン・ジョバンニ」でツェルニーナ、二期会オペラの「ポッペリアの戴冠」でアモール、その他「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナ、「仮面舞踏会」オスカル、「トゥーランドット」リュウ、「ラ・ボエーム」のムゼッタ、「椿姫」のタイトルロール、「ランスへの旅」のコリンナと多くのオペラの主要役として出演している。

海外では、オーストリア・インスブルック歌劇場で「リゴレット」のジルダ役でデビューを飾り、イギリスのイングリッシュ・ナショナル・オペラの契約歌手となり、「魔笛」の夜の女王、パパゲーナ、「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル、テレビオペラ「フィガロの結婚」でバルバリーナで出演。ロイヤル・アルバート・ホールやアメリカのカーネギー・ホールでのコンサートにも出演している。

2002年9月ブカレスト国立オペラで「夕鶴」のつう役で出演し、大成功を収めた。コンサート、ミサ曲では、「第九」「カルミナ・ブラーナ」「レクイエム」(モーツァルト、ロイド・ウェッパ)「千人の交響曲」「クリスマス・オラトリオ」「戴冠ミサ」などでソリストを務めている。「佐倉の第九」には前回に続き出演。二期会会員。武蔵野音楽大学、愛知県立芸術大学講師。



ウィーン・ハイリゲンシュタット公園にあるベートーヴェンの家

(写真提供 馬場孝之氏)



メゾソプラノ ^{もりなが} 森永 ^{ともこ} 朝子

武蔵野音楽大学卒業。同大学院修士課程修了。ドイツとイタリア留学後、文化庁オペラ研修所第五期を修了。1996/1997年に文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリア・ミラノへ派遣。1997年、文化庁主催による「帰国コンサート」(東京オペラシティ、東フィル)に出演。

オペラは、「ワルキューレ」のヴァルトラウト役で二期会デビュー。以後、ケルビーノ、アポロ、アスカーニオ、ファルナーチェ、イダマンテ、ドラベツァ、エルヴィラ、ダーメII(モーツァルト)(若杉弘)「秘密の結婚」フィダルマ、チェネレントラ、カルメン、「リゴレット」マッドレーナ、「ドン・カルロ」エボリ、「祝い歌が流れる夜に」で雅江、「脳死を超えて」の女医、「さんせう太夫」の母(三菱信託芸術音楽賞、水戸芸術館)、「広島のおルフェ」の巫女、「虎月傳」の詩人の母、「耳なし芳一」のおふく、「泣いた赤鬼」の女房役で活躍。最近では、「ホフマン物語」ミュージズ、ニコラウス(原語日本初演)、2002年には、「タンホイザー」ヴェーヌス(パリ版完全日本初演)を手がける等、非常に高い評価を得ている。

交響曲、宗教曲のソリストとして小沢征爾氏をはじめ内外の指揮者により読響、都響、日フィル、新日フィル等と共演。NHKテレビ、NHK-FM放送に出演。リサイタルも積極的に行っている。

1995年サンフランシスコ歌劇場、札幌P.M.F. 1996年第38回大阪国際フェスティバル、2000年から3年連続で新国立歌劇場、2001年に韓国国立歌劇場に出演している。

武蔵野音楽大学講師。二期会会員。東京室内歌劇場会員。



テノール ^{きさきぼら} 榎原 ^{さとし} 哲

東京芸術大音楽部声楽科卒業。声楽を三林輝夫、布施隆治の各氏に、バッハなどのオラトリオ・エヴァンゲリストをプレーメン国立音楽大学教授 小松英典氏に、指揮法を伊藤栄一氏に師事する。また、日本合唱協会を中心にプロ合唱団で演奏活動をし、合唱を増田順平氏に師事する。

1983年、神奈川県芸術祭のオーディションに合格し、山田一雄氏指揮によるベートーヴェンの「第九」にソリストとしてデビュー。以後、NHK交響楽団、神奈川フィル、ニューフィル千葉などの管弦楽団および合唱団の演奏会にソリストとして出演している。

バッハ「カンタータ」「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」、ハイドン「天地創造」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」「ミサ・ソレムニス」A.L. ウェッバー「レクイエム」など多くのレパートリーを持っている。また、最近では、日本歌曲コンサートに数多く出演し、好評を博している。

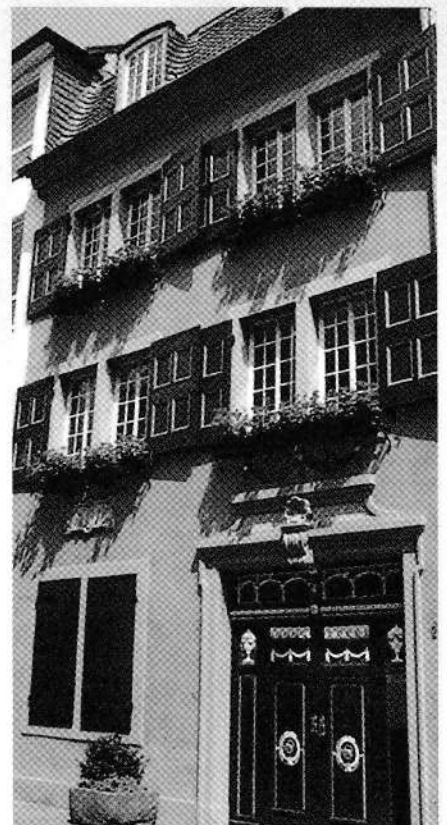
オペラ、コンサートでソリストとして活動するかたわら、船橋さざんか少年少女合唱団、君津市民合唱団、船橋フィルハーモニー合唱団、各地の「第九合唱団」など多くの合唱団の指揮、指導、ヴォイストレーナーとして活躍している。

広島エリザベート音楽大学講師。三輝会会員。日本合唱協会コンサート・マスター。「佐倉の第九」には、第2回から続いて3回目の出演。



ベートーヴェンが1825年に逗留した弟ヨハンの家(ウィーン郊外・グナイセンドルフ)

(写真提供 馬場孝之氏)



ベートーヴェンの生家(ドイツ・ボン)

(写真提供 馬場孝之氏)

佐倉第九市民合唱団

- ソプラノ

相野 栄子	網 仲 純子	稲 川 明子	岩 井 恵美子	鶴 澤 登美子	内 田 正 恵
梅 田 登志子	遠 藤 美智子	小野寺 賀世子	蚊 野 侑子	菊 間 靖子	北 野 直子
黒 田 麗子	小 山 治子	齋 藤 光依	篠 丸 郁子	清 水 良美	杉 野 眞弓
関 真由美	関 佳美	高 橋 悦子	高 橋 康子	武 居 美紀	棚 橋 伊久子
千 葉 栄子	角 田 みどり	永 倉 喜代子	中 道 睦子	浪 川 弘子	西 照子
西 村 佐知	長谷川 嘉代	平 野 直美	弘 山 孝子	深 井 純子	北 條 教子
堀 内 由紀子	本 澤 葉留美	松 本 秀子	蓑 和 憲子	村 上 光枝	守 屋 和子
山 本 淑美	吉 村 昱子	渡 邊 紀子			
- アルト

秋 田 久美子	蒔 重子	飯 泉 登美江	石 渡 夏子	江 口 みどり	大 越 美智子
太 田 京子	大 谷 和子	大 伴 葉子	岡 本 静子	勝 田 治子	河 合 美 恵
川 上 由 枝	菅 野 佑美子	木 佐 貫 肇子	木 部 石 美子	木 村 早 苗	栗 林 トシエ
小 松 喜久子	柴 田 静子	菅 野 陽子	杉 浦 美和	鈴 木 泰 江	須 原 芳子
高 橋 幸子	竹 之 下 得子	橋 美津江	田 中 久子	田 中 廣子	田 村 美佐子
寺 田 敏子	鳥 居 本 安規子	中 野 隆子	奈 良 保子	成 尾 せき	成 瀬 多恵子
丹 羽 吏子	萩 原 直美	橋 爪 美奈子	旗 雅美	服 部 節子	平 崎 慎 喜
廣 瀬 裕子	保 科 禮子	堀 井 和子	本 間 節子	松 居 美 鈴	松 田 安子
三 橋 三津枝	矢 野 昌子	山 崎 敏子	葭 原 洋子	脇 阪 一子	
- テノール

金 子 堅 一	兼 島 信 彦	川 島 幸 一	木 佐 貫 秀 彌	栗 山 通	後 藤 忠 春
小 林 勝	佐 野 政 吉	角 谷 薫	橋 幹 夫	田 村 言 行	檀 谷 正 彦
長 竹 哲 弘	永 原 文 雄	中 村 順	深 澤 孝 志	本 田 貢 久	松 原 靖 行
溝 口 祥 三					
- バ ス

天 田 祐 之	池 田 紘 忠	岡 田 亮 司	小 野 幹 幸	金 井 芳 太 郎	川 上 孝 一
工 藤 勲	熊 野 義 己	小 島 利 夫	三 枝 茂	茂 野 修 一	高 松 久 長
滝 沢 孝 一	武 知 弘 記	野 口 修 正	原 田 和 行	菱 田 清 勝	平 山 直 道
藤 卷 琢 也	町 田 裕 雄	山 崎 宏 和	山 中 誠	山 本 茂 樹	和 田 勲

第4回「佐倉第九市民合唱団」運営委員会

委員長：平山 直道 副委員長：滝沢 孝一

庶務：大谷 和子、成瀬多恵子 広報：守屋 和子 会計：蒔 重子、成瀬多恵子

監事：内田 正恵、田村 言行

パートリーダー

ソプラノ：永倉喜代子 アルト：勝田 治子、橋 美津江 テノール：兼島 信彦 バス：滝沢 孝一

親父復権の第九

佐倉第九市民合唱団運営委員長 平山 直道

「佐倉市民の第九」に参加して4回目。稀代の音痴である家内も理解を示すようになった。当初は「粗大ゴミさん、本当に出来るの？」と半信半疑だった家内が3回目から私に対する態度が変わった。粗大ゴミから宿六程度になったらいい。呼び方も「ハゲ」から「ハゲちゃん」になった。チャンを付ければ、失礼に当たらないと思っているから始末に悪い。

こちらもおーい、お茶などと呼びたいが、なかなか出来ない。この際だから親父復権を目指し、「第九」を道具にして、せめて「さん」を付けてくれるように努力するつもりだ。

4回目を迎え、指導する先生方は、前回より高度な内容を要求される。私も必死に勉強した。おぼろげながら「第九」が解ってきたような気がする。三原明人先生の指揮のもと、日頃の練習の成果を存分に発揮したいと思う。

佐倉フィルハーモニー管弦楽団

コンサート・ミストレス 城みどり

第1ヴァイオリン

天本 幸江
生田 美植
河村 彩子
♣ 清水 俊子
庄司 睦美
二宮 伸雄
比留間 真子
♪ 伊藤 桜子
♪ 下田 穰子
♪ 瀬戸 裕子
♪ 永野 武

第2ヴァイオリン

大塚 紀子
上條 弓絵
島津 智恵
下地 清香
畑 保子
山川 奈津子
♣ 吉野 淳子
♪ 亀井 玲子
♪ 川崎 牧子
♪ 竹内 まり
♪ 山岸 万紀
♪ 若林 佳水

ヴィオラ

伊藤 每
木下 雅博
白井 英子
♣ 塚嶋 友佳子
♪ 石井 一二三
♪ 犬塚 佳子
♪ 杉田 真実
♪ 平田 誠子
♪ 宮城 佐知子
♪ 山田 真弓

チェロ

♣ 清水 裕幸
♪ 大沼 博明
♪ 大矢 真由美
♪ 門内 麻子
♪ 小村 知子
♪ 佐藤 厳子
♪ 鈴木 典子
♪ 福田 夏絵

コントラバス

島村 典子
♣ 西中 久美子
西中 啓二
♪ 池 ふみ
♪ 金子 恵子
♪ 三輪 哲也

フルート

大橋 さゆり
♣ 田辺 尚子
原田 恵美
柳田 晴生
山田 綾乃

オーボエ

榎本 睦子
榎本 百合絵
原田 晶子
♣ 山田 辰雄

ファゴット

♣ 大平 麻海子
♪ 大矢 哲雄
♪ 平賀 紀章

ホルン

岡 裕昭
小林 昌樹
坂本 薫子
阪本 直樹
柴田 かおる
田中 裕子

トランペット

佐々木 直人
中山 秀嗣

トロンボーン

阿部 博
柴田 孝一
♣ 村上 茂夫

チューバ

♣ 氏家 豊

パーカッション

♣ 新井田 久美子
若菜 真紀子
♪ 岩上 晃
♪ 篠崎 美奈子

♣ パートリーダー

♪ エキストラ

回を重ねる毎に

佐倉フィルハーモニー管弦楽団事務局長 石鍋 豊和

今回で4回目の「佐倉の第九」の演奏に引き続き参加することになりました。

同じ曲を何回演奏しようと、その都度より質の高い演奏を目指すことが指揮者、演奏者の命題であることにちがいはありません。

管楽器はローテーションの関係で、初めての参加、今回は1stで、というケースもありますが、回を重ねる度に全体としては多少なりとも練習の中で、余裕のようなものが感じられるようになりました。前回までとはまたひと味ちがう演奏になると思います。

第1回で味わった感動を忘れず、今回も新たな発見、感動を求めて精一杯演奏するつもりです。



ベートーヴェンの肖像画
(小幡春生画伯:音楽ホール所蔵)

第4回佐倉の第九演奏会にあたって

佐倉市民音楽ホール館長 鶴澤登美子

佐倉の第九～市民の第九～演奏会、4回目を迎えることができました。

今回は、ベートーヴェンの交響曲第九番演奏の前にヴェルディーの有名なオペラ「ナブッコ」から「思いよ、黄金の翼にのって」を演奏することになりました。これにより演奏者は、マンネリに陥ることなく、本日の演奏に取り組むことが出来たと思っております。お聴きいただく方々にも、「佐倉の第九」は工夫していることとお感じいただけるものと思っております。

今回も合唱団員による練習委員会を設けましたが、委員のみなさんの活発な活動により練習は順調でした。佐倉フィルハーモニー管弦楽団も前回にも増して、一層熱の入った取り組みをしていただきました。

4回続いて指揮をしていただきました三原明人氏、合唱指導者の若林浩氏をはじめ本日の演奏に様々な形でご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。

次回、第5回の佐倉の第九は、東京交響楽団のご協力による演奏会となります。みなさん、ご期待ください。

主催スタッフ

総括責任 鶴澤登美子
コーディネーター 馬場 孝之
副コーディネーター 永倉喜代子、柳田 晴生
主任スタッフ 高橋 竹男
スタッフ 麻生 浩巳、鈴木 千春、
宍戸 信、関 佳美、
柴田 芳彦、半田 勲子、
勝田 誠広

協 力 (財)八千代市文化振興財団

ソプラノ 出来田三智子 (できたみちこ)

武蔵野音楽大学卒業後、二期会研究所に入る。1985年イタリア留学。ミラノ・G・ヴェルディ国立音楽院で学び、更に、カリアリ・ピエール・ルイジ・ダ・パレストリーナ国立音楽院に入り1989年卒業。

1990年、オペラ「ラ・ボエーム」のミミ役でデビュー。オペラ「イル・トロヴァトーレ」のレオノーラ役でイタリア各地を公演する。その後、イタリアで「マクベス」「マダム・バタフライ」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「エフゲニー・オネーギン」「霊媒」「ナブッコ」「さまよえるオランダ人」等の大型オペラに出演する。イタリア、フランスでリサイタル、コンサート、ラジオ放送に多数出演の後、帰国する。

2001年二期会公演のオペラ「ファルススタッフ」のアリーチェ役で出演。高崎県民芸術祭参加作品オペラ「カルメン」のカルメン役で県内5ヶ所で公演する。また、高崎県民芸術祭参加リサイタルにも出演。

第32回日伊コンクール第2位。サンタ・マルゲリータ国際コンクール第2位。ネーリ国際コンクール入選。マリオ・デル・モナコ国際コンクールに入選。

現在、高崎芸術短期大学声楽科講師。二期会会員。

